

# 総合計画市民会議 グループを通じた共通趣旨の議論について（自立・福祉）

## 【高 齢 者】

高齢者が積極的な役割を果たす。

- ・地域の中でボランティア活動
- ・他世代との交流
- ・街中に老人施設
- ・就業には生きがいの目的もある。

高齢者は支えられる側だけでなく、支える側に回ることもできる。

- ・障害者と高齢者との交流
- ・子どもと高齢者を並行して考える

高齢者の活躍をする場づくり、仕組みづくり

- ・高齢者は、自分のできごとを活用する場所がないし、分からない。

福祉課題が起こる前の健康づくりが重要

- ・生涯現役大作戦
- ・就業している高齢者は健康。

## 【子育て（居場所づくり）】

子育て関係施設の見直し

- ・こどもの施設、老人いこいの家と一緒にして作っては
- ・こども文化センターや高齢者施設など市施設については世代間交流が行われていないし、利用されていない。
- ・施設の一体的活用について、実態はプログラムや指導者が不足している。

子育てに関する地域での行動、コミュニケーション

- ・親同士のコミュニケーションだけでなく、社会全体で対応していくことが必要

こどもの居場所づくり（高齢者との交流）

- ・小中学校の空き教室などを活用した居場所づくり
- ・里山、多摩川河川敷や市民健康の森など様々な自然の場を使って、居場所、活動、学習の場づくりにより、老人と子どもが交流を図る。

# 総合計画市民会議 グループを通じた共通趣旨の議論について（自立・福祉）

## 【教育（若者）】

教育の場へ、父親、男性、地域ボランティアが、もっと参画する。

- ・男性が学校（PTA）に参画するための方策（土曜日の会合、参加義務化）

家庭教育、家庭の責任の見直し  
若者への対策

- ・親の責任も大きく、家族の考え方や価値観を見直していくことも必要
- ・家庭内で職業観を見せていく必要。
- ・若者に意欲と夢を持たせる方策
- ・いじめ、ひきこもり、虐待への対策

## 【地域社会・多文化共生、生涯学習・市民のネットワーク】

地域の中の福祉コミュニティを考え、それぞれが支えあう地域づくりを福祉は社会全体が受けるものであり、同時にするものであるという考え方

- ・DV、ひきこもり、虐待など、福祉専門家に任せるのではなく、「癒される地域社会」をいかにつくるか。「福祉コミュニティ」「福祉社会」という概念が重要。
- ・自立した住民が地域で支えあい、癒しあうことが重要
- ・「社会全体のレベルをあげる」のが福祉。すべての人が福祉を受ける場合もある。

健全者もみんなが福祉の対象で、関係は刻々変わっていき、福祉を受ける人と与える人という区分はあたらなし。

- ・施し（要求）中心の福祉から参加の福祉へ
- ・高齢者でも、やりがいをもてる、役にたつことができる。

地域の中での多文化の共生

- ・社会のグローバル化に向けた生涯学習とは別の意味での地域の中での国際化多文化への対応の方策。

生涯学習により福祉コミュニティづくりを啓発、学んでいく仕組みづくり

- ・高齢者対策でなく、これからは、働く人のための生涯学習が重要。
- ・予防福祉へ対応

専門家、ボランティアをネットワーク化する協働の仕組みが必要  
ボランティアをする人たち、ボランティアをしていない市民の情報交換の場、市民同士の共通理念をつくる場が必要

- ・市民活動センターは、今は活動している人しか対象になっていない。一般の生活する市民と、センターを結ぶことが重要